

とりなし

「そこで私は、顔を神である主に向けて祈り、断食をし、荒布を着、灰をかぶって、願い求めた。」(ダニエル書9:3)

聖書で言う「とりなし」とはほかの人々の必要のために忠実に、続けて、特に神にお願いすることで、その情況に入れるように主に訴える祈りである。ダニエル書9章のダニエルの祈りはとりなしの祈りで、同胞のユダヤ人と一つになって祈っている。そして人々の罪を告白し神に赦しを求め、エルサレムと民族の回復を訴えている。聖書にはキリストのとりなしや聖霊のとりなし、旧約聖書と新約聖書の中の神を敬う多くの人のとりなしが記録されている。

キリストと聖霊のとりなし

(1) 主イエスは地上で働いておられたときに靈的に失われた人々(神との個人的関係がなく、神の目的に従っていない人)のために祈られた。それは人々を「捜して救うために」来られたからである(ルカ19:10)。主は神に背くエルサレムの町に入るときに悲しんで涙を流された(ルカ19:41)。また弟子たち個人(→ルカ22:32)や全体(ヨハ17:6-26)のために祈られた。十字架にかけられて死ぬ間際には敵対する人々のためにも祈られた(ルカ23:34)。

(2) キリストの現在の働きは御父である神に私たちのとりなしをすることである(ロマ8:34, ヘブ7:25, 9:24, →7:25注)。ヨハネは主イエスを「御父の前で弁護する方」(→1ヨハ2:1注)と呼んでいる。私たちの救いと神との関係の継続のためにはキリストのとりなしが必要である(⇒イザ53:12)。キリストの誠実な祈りを通して神の恵み(受けるにふさわしくない好意と慈しみ)とあわれみと助けが与えられなければ神との関係は壊れてしまう。そして私たちは神から遠く離れ、再び罪の奴隸になってしまう。

(3) 聖霊もまたとりなしをしてくださる。パウロは「私たちは、どのように祈つたらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます」(ロマ8:26, →8:26注)と言っている。聖霊はキリストを知っている人の靈を通して「神のみこころに従って」(ロマ8:27)とりなしてください。つまり聖霊は神の目的と完全に一致して御父である神と話をされるのである。したがって主イエスは信仰者のために天からとりなしをされ、聖霊は地上で信仰者の心の中からとりなしをされるのである(→「聖霊の働き」の表 p.2187)。

信者のとりなし

聖書はしばしば神の民のとりなしの祈りについて書いていて、著しく力強い祈りの模範を多く記録している。

(1) 旧約聖書では王(1歴21:17, 2歴6:14-42)や預言者(1列18:41-45, ダニ9:)や祭司(エズ9:5-15, ヨエ1:13, 2:17-18)が神の民のためにとりなしの祈りを導いている。旧約聖書のとりなしの祈りの中で顕著な例としてはイシュマエル(創17:18)とソドムとゴモラのための(創18:23-32)アブラハムの祈り、子どものためのダビデの祈り(2サム12:16, 1歴29:19)、子どもたちのためのヨブの祈り(ヨブ1:5)などが挙げられる。モーセの生涯には旧約聖書のとりなしの祈りの力を示す優れた模範がいくつかある。モーセは何度も神の選民のいのちと未来のために神に嘆願した。たとえばイスラエル人が主に逆らって、カナンの地に入ることを拒んだときに神はイスラエル人を滅ぼしてモーセから偉大な国民を起こすとモーセに言われた(民14:1-12)。そのときモーセは祈りの中でそのことを主に持って行き、人々のために訴えた(民14:13-19)。その祈りの終りに神は「わたしはあなたのことばどおりに赦そう」と言わされた(民14:20, →出32:11-14, 民11:2, 12:13, 21:7, 27:5, →「効果的な祈り」の項 p.585)。そのほかにも旧約聖書にはエリヤ(1列

18:21-46、ヤコ5:16-18)、ダニエル(ダニ9:2-23)、ネヘミヤ(ネヘ1:3-11)などの力強いとりなし手がいた。

(2) 新約聖書にも多くのとりなしの祈りの模範がある。福音書(主イエスの生涯を伝える聖書の部分でマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネがある)には愛する人のために両親やほかの人々が主イエスにとりなしたことなどが次のように記録されている。両親が病気の子どもを直してほしいと主イエスに訴えたこと(マコ5:22-43、ヨハ4:47-53)。母親たちが子どもたちを祝福してくださいと主イエスに願ったこと(マコ10:13)。一人の人がしもべを癒してくださいと訴えたこと(マタ8:6-13)。ヤコブとヨハネの母親が息子たちのために主イエスにとりなしたこと(マタ20:20-21)。

(3) 新約聖書の教会は様々な人のためにしばしばとりなしをしている。たとえばエルサレムの教会はペテロが牢獄から解放されるように集まって祈った(使12:5、12)。アンテオケの教会はバルナバとパウロの伝道奉仕が成功するように祈った(使13:3)。ヤコブは特に教会の長老たちに病人のために祈るように(ヤコ5:14)、そしてどのキリスト者にも「互いのために祈りなさい」(ヤコ5:16、⇒ヘブ13:18-19)と教えている。パウロはさらに進んで、「すべての人のために」祈りをささげるように求めている(1テモ2:1-3)。

(4) 使徒パウロについては特別に触れる必要がある(パウロはユダヤ人以外の人、つまり異邦人に対する開拓宣教師で初代教会の指導者だった。いくつかの教会を始め新約聖書の多くの手紙を書いた)。多くの手紙の中でパウロは様々な教会や個人のために祈っていると書いている(ロマ1:9-10、コリ13:7、ピリ1:4-11、コロ1:3、9-12、1テサ1:2-3、2テサ1:11-12、1テモ1:3、ピレ1:4-6)。時々パウロは自分の祈りを手紙の中に書いている(エペ1:15-19、3:14-19、1テサ3:11-13)。同時に自分の働きは人々の祈りによつてのみ最高の効果が得られる事を知っていたので、教会に祈ってほしいとしばしば求めている(ロマ15:30-32、コリ1:11、エペ6:18-20、ピリ1:19、コロ4:3-4、1テサ5:25、2テサ3:1-2)。

とりなしの目的

聖書にある数多くのとりなしの祈りの中で、神に忠実な人々は神がさばきを下さないように(創18:23-32、民14:13-19、ヨエ2:17)、神の民を回復してくださるように(ネヘ1:10、ダニ9:)、人々を危険から救い出してくださるように(使12:5、12、ロマ15:31)、神の民を祝福してくださるように(民6:24-26、1列18:41-45、詩122:6-8)、神に訴えている。とりなしをする人は聖霊の力が下るように(使8:15-17、エペ3:14-17)、そして人々が癒されるように(1列17:20-21、使28:8、ヤコ5:14-16)祈った。旧約聖書と新約聖書の人々は罪の赦しのために(エズ9:5-15、ダニ9:8、使7:60)、権威を持つ人々が良い指導をすることができるよう(1歴29:19、1テモ2:1-2)、祈りをささげた。また信仰者の靈的成長のために(ピリ1:9-11、コロ1:10-11)、牧師が成長するように(2テモ1:3-7)、効果的な宣教ができるように(マタ9:38、エペ6:19-20)、ほかの人々が救われるよう(ロマ10:1)、人々が神を賛美するように(詩67:3-5)、祈った。聖霊または聖書によって神のみこころ(神の願い、計画、目的→「神のみこころ」の項 p.1207)として啓示されたことはその時に祈りの中心課題になった。絶えず忍耐をもって祈る祈りの力と信仰の原則を神はいつも尊重してください。

（8）お詫びの手紙（即ち半章と）即ち中の間事（S）